



武蔵野市水環境連続講座「水の学校」2016 開校！

「水の学校」は、市民のみなさんといっしょに、水を知り、考える連続講座です。くらしの中の身近な水循環、下水道の役割や、水に親しみ水を楽しむ知恵、そして世界規模の水課題、地球規模の水循環まで、水を取りまくさまざまなテーマをとりあげ、楽しみながら考えを深め、行動へつなげます。2014年度からスタートし、3年目を迎えました。

連続講座レポート

第1回 「水の学校 2016」開校式

～もっと知ろう武蔵野の水、考えよう水とくらしの深い関わり

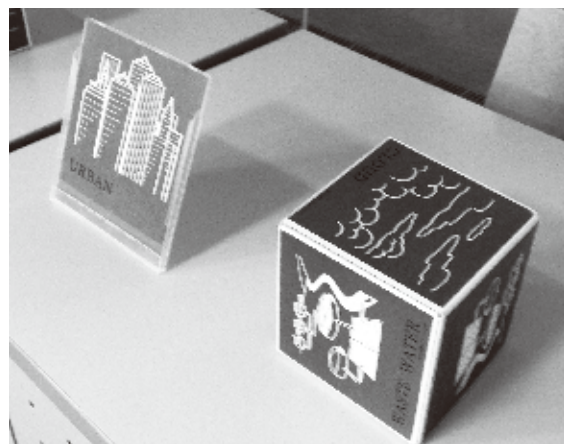
6/11(土)、水ジャーナリストで「水の学校」名誉校長の橋本淳司氏をファシリテーターに迎え、初回講座を開催しました。

冒頭で邑上市長が市で水の循環をすすめていること、水についてどんどん関心をもってほしいと述べたのに続き、下水道課長から下水道の歴史を伝え、水の学校で学ぶ意義についてのお話をしました。さらに、事務局から「水の学校」全体の仕組み、今後の連続講座の進め方、2014年度・2015年度修了生有志による「水の学校サポーター」の紹介などを行い、開校式としました。

開校式に続く、第1回講座では、ウォーミングアップとして、体を動かしながら4択問題に答える「むさしの水クイズ」を行いました（クイズの詳細は裏面「水コラム」で紹介しています）。橋本氏からは、水に興味をもったきっかけや、水に恵まれない地域の過酷な水事情などが紹介され、きれいな水があるのはあたりまえではないこととお話いただき、2つの参加型プログラムを通して水についてみんなで考え、思いを巡らせました。

汚染の原因、その結論は正しいの？

はじめに行ったプログラム、「重大な過ち」では、仮想の小さなまちでおこった地下水のヒ素汚染の原因を探るゲームにグループごとに挑戦。意見を交換しながらわきあいといつと進めました。かつては画期的な物質として重宝されていたものが、のちのち環境汚染を引き起こすことがあること、「近くの工場のせいだ」といった安易な思い込みにより本当の原因がわからなくなってしまうことの危うさについての話がありました。



「ブルートラベラー」では、雲・川・土などに加え、都市・農村・下水処理場など様々な場所をサイコロの目に従ってめぐります。

めぐる水を知り、つきあい方を考える

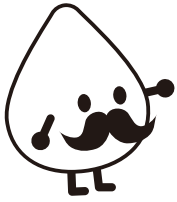
続いてのプログラム、「ブルートラベラー」では、一人ひとりが水の分子になって、サイコロをふりながら、自然界と人間界の水の循環を体験。水と生活のかかわり、水の循環を改めて気づかされた方も多かったのではないのでしょうか。まとめに、武蔵野市では1日一人当たり平均330ℓ水を使っているが、その8割は地下水であることにふれ、地下水脈の画像や熊本地震で水脈や水道管が断線した事例などを紹介しながら、ふだんは意識しない、見えない地下水や水道管をはじめとするインフラについての問題提起がありました。

昨年度までの修了生「サポーター」も、受講生をリードする形で参加しました。講座の最後には、自身が初めて受講したきっかけから、いままで参加したプログラムの楽しさ、さらに、市を応援したいという熱い想いまでお話しいただきました。

受講生の声より

- 水の大切さがわかり次回からの意欲も高まった。
- 水という視点から自分の暮らしと社会の仕組み、これからの在り方を考えるためのヒントをたくさん得られそうでした。
- 水の大切さを改めて考えさせられた。水を知るということは、自分の生活を考えることにつながるのだと思った。
- 水は、大切にしなければと思いました。今日習ったことを、家族に伝え、さっそく実行したい。
- 人々がおかしやすい「重大な過ち」を身をもって体験できたことが印象的です。
- 水の分子になって旅をしてみたのがおもしろかったです。いろいろな場所に行きました。

水コラム no.15: 水について、どのくらい知ってる？



第1回講座では、クイズ形式で参加者同士コミュニケーションをとりながら、自身の水に関する知識を再認識する時間を取りました。当日のクイズは、普段飲んでいる水で分かれるところから開始。水道水をそのまま飲んでいる方が最も多く、次いで水道水を浄水器にかけている方、ミネラルウォーター、湯冷まし等、の順でした。その「水の合う」仲間同士でペアを作り、全7問のクイズに挑戦しましたが、残念ながら全問正解はいませんでした。当日出題した問題をいくつか紹介します。正解がわかるでしょうか？

Q 武蔵野市民が1日に使う水道水の量は？

こたえ . 339ℓ : 武蔵野市民平均 (2013)

武蔵野市のデータは、浄水場から1日に送り出される平均の水量を人口で割って算出しています。節水型トイレ、洗濯機、食洗機の普及などにより、特に都市部を中心に平均有収水量は減少傾向となっています。



Q 市内を流れる玉川上水には主に何の水が流れている？

こたえ . 下水処理水

玉川上水は、江戸時代に多摩川の水を江戸に引き入れるために作られた人工の水路です。現在も上流部には多摩川の水が流れていますが、その大半は小平監視所から東村山浄水場などへ送られてしまい、1970年代までは、下流部はほとんど「涸れ川」の状態になっていました。その後、東京都による清流復活事業によって1986(昭和61)年に流れが復活しました。



武蔵野市民1人が1日に使う水道水の量については、「意外と多い!」という声も。市内を流れる玉川上水に流れる水は主に下水処理水ですが、多摩川の水と思っている方も多く、驚きの声が上がりました。



オープン講座&イベント レポート (6月)

6/5 (日) 「水道水はどうやって作られる? 水道の地震対策は? 水道週間イベント」 武蔵野市第一浄水場

家庭の蛇口から出る水はどうやってつくられるの? 漏水ってどうしてわかるの? といった日頃の疑問を体験型で解消できるイベントを武蔵野市水道部が第一浄水場にて開催しました。市内の各家庭の蛇口から出る水をつくりだしている浄水場の見学と合わせて、水道や下水道にかかわるブース出展があり、盛りだくさんの内容となりました。

断水時に水を運んだら、どのくらいの重さになるか? を身をもって体験できる水運び、漏水を音で発見する機器の体験などみなさん五感を使って楽しんでいました。下水道の模型や実際に水を流して浸み込む様子を観察できる「雨水浸透ます」の実物展示など、使った水や降ってくる水(雨)の行方を見える化したコーナーもあり、「うちにもある雨水ますだよ」と家族に紹介している姿も見られました。

6/9 (木) 「きき水&廃油キャンドル作り」 アトレ吉祥寺

きき水は70名、廃油キャンドルは47名の参加がありました。「思ったよりきれいに色がついてよかった」、「味のいいお水もこんなに違うんだとびっくりしました!」、などの声が聞かれました。

6/2 (木) ~ 30 (木) 「水と雨にまつわるテーマ展示」

中央図書館

6月の浸水対策強化月間に合わせ、水と雨をテーマに本を集め、中央図書館で展示を行いました。雨と言っても、台風や洪水などの水害をもたらす雨、貯めることで、水資源として使うことのできる雨、地面にしみ込んで湧水となる雨などなど…。図書館でのテーマ展示期間が終わったあと、展示していた本のリストは図書館ホームページ「おすすめの本」よりご覧いただけます。皆さんが今まで知らなかった水や雨のすがたを、本を通して見つけてみませんか。

サポーター活動報告

4/2 (土) 仙川ツアー

武蔵境駅から武蔵野市内の上流部まで歩いて探検するツアーを実施しました。探検の成果がわかる地図を作成しています。

4/23 (土) サポーターミーティング

市役所会議室に集まり、近況報告、今年度の活動内容の相談をしました。湧水めぐりや、オープン講座の企画などの案が出されました。

5/7 (土) 田村酒造見学と羽村の水めぐりツアー

多摩川の畔に立つ田村酒造場とその敷地内を流れる玉川上水からひかれた田村分水、さらに1.3kmほど上流の「羽村堰」、鎌倉時代に掘られたとされる「まいまいず井戸」も見学し、水と人との歴史を感じるツアーとなりました。

6/18 (土) お鷹の道・真姿の池湧水群

環境省の「日本の名水百選」、「東京の名湧水57選」に選ばれています。殿ヶ谷戸庭園では、ガイドツアーに参加し、楽しみました。

